

2017年9月11日  
公益財団法人イオン環境財団

～海岸防災林ならびに緑あふれる沿岸部の再生を目指して～  
**9 / 16 (土) 「福島県 いわき市植樹」開催**  
700名のボランティアの皆さまと7,000本の木を植えます

公益財団法人イオン環境財団（理事長岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は9月16日（土）、「福島県 いわき市植樹」（以下、本植樹）を実施します。

福島県内最大の人口と面積を有するいわき市は、美しい海をはじめとする豊かな自然や温泉などにより、近年では観光地としても発展を遂げています。

本植樹は、福島県・いわき市と締結した「森林づくりに関する協定」に基づき東日本大震災により流失した防災海岸林ならびに沿岸部の再生を目的に行うもので当日は、700名のボランティアの皆さまとともに、7,000本の木を植えます。

イオングループでは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足し、当財団の植樹活動のみならず、お客さまとともに取り組む植樹やボランティア活動など、東日本大震災の被災地の復興・創生に向けてさまざまな活動を行っています。

なお、2018年6月10日（日）に、福島県南相馬市にて開催される「第69回全国植樹祭ふくしま2018」※1に対し、当財団ならびに公益財団法人イオンワンパーセントクラブは苗木の提供や会場運営などの協賛・協力を行うこととなりました。これを受け、本植樹当日の開会式に先立ち「全国植樹祭」のセレモニーを実施し、「森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー」※2を行います。

当財団は今後も、豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹活動をはじめとする環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時：2017年9月16日（土）13：00～14：30  
場 所：いわき市錦町須賀73-46  
参加人数：700名  
樹 種：クロマツ、山桜、トベラ、ヤブツバキ、シャリンバイ、マテバシイ 計6種  
本 数：7,000本  
面 積：1.08ha  
主 催：公益財団法人イオン環境財団  
協 力：イオンモール株式会社、イオンリテール株式会社、マックスパリュ南東北株式会社  
株式会社サンデー  
後 援：福島県  
出 席 者：福島県  
（予定） いわき市  
公益財団法人イオン環境財団  
イオン株式会社  
イオンモール株式会社  
副知事  
市長  
理事長  
東北代表  
会長  
畠 利行 様  
清水 敏男 様  
岡田 卓也  
家坂 有朋  
村上 教行

以上

※1 全国植樹祭は、国土緑化運動の中心的行事として1950年以来、毎年（公財）国土緑化推進機構と開催県の共催により実施されているものです。

※2 福島県での「第69回全国植樹祭」開催に向け、県民参加の森林づくりを推進し、森林をすべての県民で守り育て、未来へ引き継いでいくため、県内各地の植樹活動をリレーで結ぶ活動として、「森林とのきずなづくり植樹リレー」が行われています。

## ご参考

### <イオンの東北地方における取り組みについて>

#### 【公益財団法人イオン環境財団】

##### ■植樹

###### ・秋田県下浜海岸植樹（2005年～2009年）

酸性雨や松食い虫の被害にあい、大部分が立ち枯れ状態にあった秋田県の日本海沿岸の松林を再生するため、5年間でボランティアの皆さま4,300名とともに42,250本を植えました。2007年の植樹には、当財団の15周年記念式典にてご講演いただいた、ノーベル平和賞受賞者であり、元ケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ女史にもご参加いただきました。

###### ・山形県南陽市植樹（2010年～2012年）

松くい虫被害などで荒れた森林を再生させるため、2010年から3年間で実施。ボランティアの皆さま1,000名とともに5,100本を植えました。

###### ・宮城県石巻市植樹（2012年）

1,600名のボランティアの皆さまとともに、東日本大震災で津波被害を受けた上釜ふれあい広場にて植樹活動を実施。地域に自生する苗木15,000本を植えました。

###### ・宮城県亶理町植樹（2016年）

東日本大震災の津波により流失した海岸防災林の再生を目指し、宮城県が推進する「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に賛同し、3年計画にて実施。初年度となる2016年は、ボランティアの皆さま1,100名が震災後に同町で採種し、育てたコナラやヤマザクラなどの苗木13,000本を植えました。



2016年 宮城県亶理町植樹

##### ■顕彰事業

###### ・生物多様性日本アワード（国内賞）

2009年に「生物多様性の保全と持続可能な利用の促進」を目的に、「生物多様性日本アワード」を創設。隔年で国内の優れた取り組みを顕彰しています。

###### 《宮城県内の授賞団体》

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| ・日本雁を保護する会             | (2011年 グランプリ) |
| ・有限会社熊谷産業              | (2011年 優秀賞)   |
| ・特定非営利活動法人田んぼ          | (2013年 グランプリ) |
| ・ネイチャー・テクノロジー研究会（東北大学） | (2013年 優秀賞)   |
| ・気仙沼市立大谷中学校            | (2015年 優秀賞)   |
| ・宮城県漁業協同組合             | (2017年 優秀賞)   |

##### ■環境活動助成事業

世界各地で、生物多様性の保全とその持続可能な利用のために活動する団体に対して助成を行っています。

###### 《東北地方で活動を行う団体への助成》（2011年以降）

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| ・伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会    | ・NPO法人 白神ネイチャー協会        |
| ・NPO法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議 | ・（公財）鎮守の森のプロジェクト        |
| ・（公財）瓦礫を活かす森の長城プロジェクト | ・NPO法人 とんぼエコオフィス        |
| ・NPO法人 環境改善協会         | ・NPO法人 日本ツキノワグマ研究所      |
| ・NPO法人 環境再生機構         | ・（一社）ふらっと一ほく            |
| ・NPO法人 環境生態工学研究所      | ・本州産クマガラ研究会             |
| ・草木谷を守る会              | ・水原の自然を守る会              |
| ・グループ「森」の会            | ・NPO法人 リアスの森応援隊         |
| ・NPO法人 こころの森          | ・NPO法人 わたりグリーンベルトプロジェクト |
| ・NPO法人 白神山地を守る会       |                         |

## ■環境教育事業

### ・「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」

環境分野において、グローバルなステージで活躍する人材育成に取り組んでおり、環境教育事業を重要な活動のひとつに位置付けています。2012年にスタートした本フォーラムは、毎年1カ国1大学を加えながら実施しており、本年は、タイのチュラロンコン大学を迎え、8カ国8大学64名の大学生が「生物多様性と再生」というテーマのもと、東北の被災地を中心にフィールドワークを行いました。



宮城県 巨理町での太鼓体験

## 【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ】

### ■福島キッズ森もりプロジェクト

未だに故郷に戻れない福島県下の原発事故避難地域の子ども達を「アフンの森（長野県信濃町）」に招き、森の中での自然体験活動を通じて、子ども達の心のケアを行っています。昨年は320名が参加しました。

### ■神社境内や社有地にある「鎮守の森づくり」の再生を支援

2015年度まで、近隣の住民を災害から守る防災林として、神社境内および社有地にある「鎮守の森」の再生を支援しました。東北においては、これまで986名の地域の皆さまにご参加いただき、計9カ所で、累計16,433本の植樹を行いました。



2013年 宮城県  
気仙沼一景島神社での植樹

## 【イオングループ各社】

### ■東北の創生に向けた取り組み

震災から1年後の2012年3月より、「3.11復興への願いをカタチに」を合言葉に、東北の農水畜産業の復興・活性化を継続的に応援するべく、東北の生産者の皆さまのご協力のもと、東北産原材料を使用した商品開発や、国内外のグループ店舗での東北フェアの開催等を通じ、東北産品の販売拡大を図ってきました。

震災から5年となる2016年からは「にぎわい東北一つなげよう、ふるさとのチカラ」という新たな決意のもと、「復興支援」のステージから「地域（ふるさと）の創生」のステージに進むべく、グループをあげて地域の持つチカラを成長へのうねりに変え、“にぎわい”あふれる東北の未来をつくりたいという想いで取り組んでいます。

### ■イオン 心をつなぐプロジェクト

2012年3月にイオンの労使一体で復興支援ボランティア活動などを進める「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足。2021年までの10年間で被災地へのボランティア派遣30万人、被災地沿岸部に30万本を植樹する目標を掲げ、取り組みを進めています。東北復興ふるさとの森づくり」などを通じた本プロジェクトでの植樹本数は、2017年6月末までに217,665本となりました。

また、震災から5年を経た2016年5月には、被災地における社会的課題のひとつが「持続可能な地域共同体の再生である」と考え、地域交流型の支援活動を通じて持続可能なコミュニティの再生を目指す「イオン 未来共創プログラム」をスタートしています。



2017年 第1回高田松原植樹